

第3学年国語科学習指導案

1. 単元名 進んで話し合い、発表しよう 『分類』ということ

2. 指導観

○ こんな子どもだから

本学年の子どもたちは、「話すこと」については、1学期の国語「道案内をしよう」で、「大事なことを短い言葉で話す」ことや「順序が分かるように話す」こと、「間違えそうな所、分かりにくそうな所は、くわしくていねいに話す」ことについて学習してきた。ここで学習したことを総合的な学習の時間「百道たんけんたい」で生かすことにより、分かりやすく伝えるように「はじめに」「次に」など順序を表す言葉を入れて説明したり、資料や具体物を使って話したりすることについてずいぶん定着してきているが、聞き手の反応を見ながら話すことや、速さを意識して話すことがまだ十分ではない。

「話し合うこと」についてはこれまで経験が少なく、自分の考えと同じところや違うところを比べながら話すことはまだ十分ではない。

○ このような学習で

本単元は、分類することをもとに、分類のしかたについて話し合ったり、身の回りで分類されている物を探して分かったことを発表したりすることを通して、互いの考えを分かり合える話し合いの仕方や、聞き手によく分かる発表の仕方を学ぶことをねらいとしている。

分類は身の回りの様々な場面で使われているが、子どもたちは実生活においてその便利さを意識する機会は少ないと思われる。従って分類のよさについて話し合うことは子どもたちにとって分類への興味関心を高め、自分の分類と同じところや違うところを比べながら話し合う力を身につけたり、身の回りの生活から探してみようとしたりする意欲を持たせたりすることができる。

また、身の回りから分類の例を探す過程においてインタビューを行ったり、調べたことを分かりやすく伝えたりする活動を通して、分かりやすく伝えるように「順序や速さ、音量などに気をつけて話す力や態度」、「自分の考えと同じところや違うところを比べながら話すことを身につける力や態度」を身につけることができる。

本単元の小中連携教育の視点

この学習は、話す・聞く系統表の「声の大きさや速さを考えながら話す」「大事なことを確かめながら聞く」「似た考えや違う考えを整理しながら話し合う。」「わからないことは質問する」をねらいとしており、高学年の内容につながる上でも意義深いと考える。

○このような支援で

指導にあたっては、分類のよさについて話し合うこと、調べたいテーマを決め、調べから発表までの見通しを立てること、調べたことを発表することの3次で構成したい。

第1次では、自分のねこの分け方と、友だちの分け方を話し合っ比較することで自分の考えを深め、分類することの意味やいろいろな分類の仕方があることを理解することをねらう。

まず、教科書のねこのさし絵から、各自がねこを二つか三つのグループに分け、その分け方を説明できるように整理する。

次に教科書の「話し合いで大切なこと」をもとに「友だちの意見の同じところと違うところに注意すること」「分からないことは質問すること」を学び、ねこの分け方について実際に話し合う。その際、話し合いの流れをCDにより提示しながら、意見の同じところや違うところに注意しながら聞いたり話したりしている場面、分からないことを質問している場面に気づかせ、話し合いへの生かし方を理解できるようにする。

第2次では、調べたいテーマとその調査方法を決めて調べ、発表までの見通しを立てることをねらう。

まず、「分類発表会」を行うことを知らせ、身の回りから分類するものを探して一つだけ課題を決める。次に調べたり、インタビューをしたりして発表の材料を集め、まとめる。

その際、まとめるために(1)何が、どのように分類されているか、(2)どのような工夫

がされているのか。(3) どのようなことに役立っているのか。(4) 調べて思ったことの4つの観点を示す。

第3次では、声の大きさや話す速さを考え、整理した事柄を順序立てて発表することをねらう。発表については、前時で学んだまとめの観点をもとに、ワークシートを使いながら発表内容を組み立てさせる。

次に発表の練習を行う。その際、ビデオによるモデル提示により、声の大きさや速さなどの練習の観点についての共通理解を行った後、各自練習する。

発表会では、相互評価を行い、話すことの力の高まりについての振り返りを行う。

ここで学んだ「話すこと」、「話し合うこと」の力を総合的な学習の時間「おとなりの国 かん国」で生かし、定着させることができるような関連を仕組みたい。

3. 目標

- 分類することの意味に興味を持ち、分類されている物を調べようとする事ができる。
- 調べた内容が分かりやすく伝わるように、順序を考え、資料や具体物を使ったりしながら丁寧な言葉遣いで話すことができる。
- 「分類」について、自分の立場をはっきりさせ、互いの考えを比べながら進んで話し合うことができる。
- その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。

4. 学習計画（15時間）

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点(※他教科との関連)
<p>1. 分類に興味を持ち、実際に分類し話し合うことで互いの考えを分かり合う。 ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ねこの挿絵を見ていくつかのグループに分け、分け方を説明できるように整理する。 ○ 話し合いの流れをつかむ。 <p style="text-align: right;">(3の〇本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで話し合ったことをまとめて発表する。 ○ 資料を読み、いろいろな分類の仕方があることを知る。 ○ 「分類」についてまとめる。 <p style="text-align: right;">(3の〇本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ モデル演示により、分類の意味と観点を理解させる。 ○ 資料CDにより話し合いにおいて大切なことをおさえる。
<p>2. 「分類」ということで、調べたいことを決めて、発表の材料集めをする。 ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インタビューのしかたについて確かめる。 <p style="text-align: right;">(3の〇本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題を決める。 ○ 発表までの見通しを立てる。 ○ 発表の材料を集める。 ○ 観点を決め、調べたことをまとめる。 	<p>※ 総合的な学習の時間「おとなりの国 かん国」における課題の解決に生かすことができることを知らせ、関連を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを確かめながら聞く(順序, 要点, 中心) ・分からないことは質問する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 代表児の演示により、インタビューの仕方についての共通理解を行う。
<p>3. 「分類」発表会を開く。 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表の組み立て方を確認し、組み立てを考える。 ○ 発表の練習をする。 <p style="text-align: right;">(3の〇本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分類発表会を開く 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビデオの提示により、聞き取りやすい適正な速さの話し方を見取らせる。 <p>※ 総合的な学習の時間で、学んだ力を発揮することを確認し、関連を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや速さを考えながら話す。 </div>

本時学習指導案（2 / 15）

公開授業 I

1. 本時の目標

- 自分の分類の仕方と、友だちの分類の仕方を比べ、同じところや違うところに注意しながら話し合うことができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

資料 CD により話し合いの流れについて共通理解させれば、子どもたちは友だちと同じところや違うところに注意して話し合うことができるだろう。

子どもたちは、前時に、ねこのさし絵を見て自分の考えで二つか三つの分類をし、その分け方を説明できるように各自整理している。

本時は、ねこの分け方についてグループになって話し合う時間である。自分の分類の手がかり（観点）と、友だちの手がかりの、同じところや違うところを見つけながら話し合うことをねらう。

支援にあたっては、まず教科書をもとに「話し合いでたいせつなこと」を確かめさせる。すなわち、①自分と同じところはどこか、自分とちがうところはどこかに注意して聞くこと、②分からないところは質問することである。

次に、CD を①自分と同じところ・自分とちがうところを、どういうことばで伝えているか「～さんと同じです」「～さんとはちがって」などのことばに気をつけて聞かせる。

さらに、CD 原稿を使ってたいせつなこと①②を確認し、話し合いの流れについて共通理解させる。すなわち、話し手の話に対して、「～さんと同じです。」「～さんとちがいます。」などの言葉を使いながら話すことを知らせることで、同じところや違うところに注意して話し合いをすることができるようにする。②の「分からないことは質問すること」に関しては、必要な場合にできればよいことを伝える。

最後に本時学習の振り返りを行う。

「話し合いで大切なこと」について、同じところや違うところに気をつけながら話し合いをすることができたか、その結果自分の分け方と比べて、どんなところが同じでどんなところが違っていたかが分かったかを自己評価させる。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「似た考えや違う考えを整理しながら話し合う」「分からないことは質問する」をねらいとしており、高学年の話し合う力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

- (教師) ねこのさし絵の拡大
「話し合いでたいせつなこと」2点をまとめたカード
「～さんと同じです。」「～さんとちがいます。」カード
話し合いのモデルCDとCDラジカセ
CDの原稿拡大
「今日の学習で」プリント
- (グループ) 「～さんと同じです。」「～さんとちがいます。」カード
- (子ども) 前時のねこを分類したプリント
CD原稿
ねこのさし絵

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援／指導の工夫と留意点
<p>1. めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちの分け方と、同じところ・ちがうところに気をつけながら、ねこの分け方について、話し合おう。</p> </div> <p>2. 「話し合いでたいせつなこと」をおさえ、実際の話し合いで、どうつかわれているか確かめ、話し合いの流れについて共通理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書で、「話し合いでたいせつなこと」を知る。 ①自分と同じところはどこか、自分とちがうところはどこか ②分からないところは質問する ○ CDを聞きながら、大切なこと①②を見つける。 ○ CD原稿を使って見つけた大切①②を確認し、話し合いの流れについて共通理解する。 <p>3. 「～と同じです。」「～とちがいます。」を使って話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「〇〇のところは～と同じです。」「～さんとちがって、わたしは□□のようにわかりました。」などの言葉を使いながら話すこと。 <p>4. 振り返りをする。</p> <p>「今日の学習で」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「～と同じです。」「～とちがいます。」の言葉を使って話し合いができたか。 ○友だちと同じところ、違うところがあったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を想起させる。 ○ 大切なことをカードで示す。 ○ 「～と同じです。」「～さんとちがいます。」などと話してから自分の考えを述べるとよいことを知らせる。 ○ あいづち・うなずき・気づきの言葉にも注目させる。 ○ 「分からないことについては質問する」については、分からないことがあった時にできればよいことを知らせる。 ○ 「～さんと～さんは、ここが同じですね。」など、整理する発言も賞賛する。

5. 板書計画

進んで話し合い、発表しよう
「分類」ということ

めあて
友だちの分け方と、同じところ・ちがうところに気をつけながら、ねこの分け方について、話し合おう。

ねこの
さし絵
拡大

CD原稿
拡大

話し合いでたいせつなこと

①自分と同じ考えはどこか、自分とちがうところはどこか、に注意して聞く。

「～さんと同じです。」

「～さんとちがいます。」

②分からないところは、しつもんする。

本時のまとめ

- ・自分と同じ分け方があった。
- ・分けたのをさらに分けた分け方があった。

本時学習指導案（6／15）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- 二つの観点で分類したことを、同じところと違うところに注意して話し合うことができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

二つの観点から分類したことを話し合う代表児による共通理解の場を設定することで、自分の分類の仕方と同じところと違うところに気をつけた話し合いができるであろう。

子どもたちは、前時までに、ねこのさし絵を分類し、自分の分け方を説明したり、自分の分け方と違うところ同じところに気をつけて聞いたりする話し合いを行っている。さらに、資料「分類」を読んで、分類の意味や二つの観点から分けた分類のしかたがあることを理解している。その上で、前時には、再度ねこのさし絵を使って、二つの観点から分類をしている。

本時指導にあたっては、代表のグループにより、二つの観点から分類をしたことを出し合って、二つの観点や分類の仕方について同じところ似ているところを話し合う場を提示する。このことを通して、本時の話し合いのしかたと前回の話し合いの仕方との違いを明らかにして共通理解を図りたい。

次に、それぞれが分類した二つの観点からの分類の方法をグループで出し合い、同じところと違うところに注意して話し合うようにする。

話し合いを終えた後、振り返りカードに記入することで、「話し合いで大切なこと」は達成できたか、前回の話し合いと比べてどのような話し合いになったかについて振り返りをさせる。

最後に、これまでの学習をもとにして、身の回りで分類してあるものを探して、発表していくことを知らせ、次時からの学習の見通しを持たせるようにする。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「似た考えや違う考えを整理しながら話し合う」を身につけることを主なねらいとしており、これは、高学年の話し合う力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

(教師) 話し合いの仕方
代表グループの分類表1, 2, 3
ねこのさし絵 (拡大)

(子ども) 分類表
振り返りカード

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援／指導の工夫と留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 分類したことを同じところ違うところに気をつけて話し合おう。 </div> <p>2. 代表児の話し合いを見る。</p> <p>3. 二つの観点で分類したことを話し合う。</p> <p>① 前回の話し合いを振り返る。</p> <p>② 分類したことについて、同じところと違うところという言葉を意識して話し合う。</p> <p>4. 振り返りカードを書き、話し合いの仕方を振り返る。</p> <p>5. 次時の予告をする。</p> <p>身近な所にある分類を調べ、発表していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を想起させる。 ○ 「・・・と違うところは・・・で、同じところは・・・です。」などの話し合い方に注意させる。 ○ 分かりやすいように分類の表を見せながら話し合いをさせる。 ○ 発表が苦手な子どもには、発表の仕方を見ながら話し合うようにさせる。 ○ 「話し合いのしかた」で学んだ話し合いができたか、前時の話し合いとの違いはあったかについて振り返るようにさせる。 ○ 次時からは、自分の身近なところにある分類を調べて発表することを知らせる。

5. 板書計画

めあて

分類したことを同じところと違うところに気をつけて話し合おう。

ねこのさし絵

「話し合いで大切なこと」

- 同じところと違うところに気をつけて聞く。
- 分からないことは質問する。
- それぞれの考え方を、たがいによく分かり合う。

まとめ

同じところと違うところに気をつけて話し合うことができた

代表グループの
分類表 3

代表グループの
分類表 2

代表グループの
分類 1

本時学習指導案（7 / 15）

公開授業 I

1. 本時の目標

- 調べたい事柄を順序よくたずねることができる。
- 相手の話を注意深く聞き、分からないときは話の区切りで聞き返したり、質問したりすることができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

代表児のモデル演示による共通理解の場やインタビューの練習の場を設定する事によって、順序よくたずねたり、分からないところは聞き返したり、質問したりすることができるであろう。

前時までに、子どもたちは、ねこのさし絵の分類について、自分の分け方の説明をしたり、友だちの分け方を自分の考えと比べて聞いたり、話し合ったりして、「分類」の意味やいろいろな分類の仕方があることを学習している。また、話し合いをすることで、自分の考えを深めてきている。さらに、子どもたちには、自分の課題を決めて発表の材料集めをし、発表会を開くことを知らせている。

そこで本時では、材料集めの調べ方として「インタビュー」の練習をする。

本時指導にあたっては、まず、モデルビデオと教科書を使って、インタビューの仕方とインタビューの六つのポイントをおさえる。特に、ここでは、「前もって考えておいたことを順序よくていねいにたずねること」と「相手の話を注意深く聞き、分からない時は、話の区切りで聞き返したり、質問したりすること」の二つの点に気を付けてインタビューの練習をしていくことを確認する。

次に、代表児のモデル演示をみんなで見て話し合うことで、共通理解を深める。そして3・4人のグループを作り、好きな話題をテーマにインタビューの練習をする。ここでは、それぞれ役に分かれて練習させるが、ローテーションを組むなどして、何度も繰り返し練習をさせ、インタビューに慣れさせていきたい。

インタビューの仕方（内容・順序・質問・聞き返し等）について「振り返りカード」に書き、自分のよさや友だちのよさを見つけることができるようにする。

最後に、次時は、インタビューの練習の学習を生かして、「分類」についての課題を決め、インタビュー調査の計画をたてることを知らせる。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「調べた事柄を順序よく尋ね、相手の話を注意深く聞くとともに理解できるまで、質問や確かめをすることができる」を身に付けることを主なねらいとしており、これは、高学年の話す・聞く力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

（教師） モデルビデオ
振り返りカード
役割ネームカード

（子ども） インタビューカード

本時学習指導案（13／15）

公開授業Ⅱ

1. 本時の目標

- 整理した事柄を順序立て、話す速さを考えて発表する練習をすることができる。

2. 本時の支援・指導にあたって

本時の仮説

ビデオによるモデル演示を行うことにより、子どもたちは聞き取りやすい速さや間に注意した話し方について見取り、速さに注意した発表の練習をすることができるだろう。

前時までに、子どもたちは身の回りからさまざまな分類の例を見つけ、調べたことを整理してメモにまとめてきた。そして資料 CD を聞いて聞く人にきちんと伝わる発表の流れを学び、メモをもとにワークシートに（1）調べたこと、（2）どのように分類されているか、（3）どんな工夫がされているか、（4）どのようなことに役立っているのか、（5）思ったこと、感想という観点で、順序立てた発表を行うための組み立てを行っている。

本時は、「分類」発表会へ向けての発表の練習を行う時間である。前時につくったワークシートをもとに発表の練習を行うことを通して、話す速さと間に注意して話すことを学ぶ。

本時の支援にあたっては、ビデオによるモデル演示により、聞く人に分かりやすい速さや間に気をつけるよさについて見取らせる。すなわち、教師が速さと間について、速い場合と適正な場合とを比べて見取らせ、子どもたちが自分なりに適正と思われる速さで一度試してみた後、前時に聞いておいた資料の CD を聞いて自分の速さと比べ、気をつける点について文章化させる。

次にお互いに練習し合わせる。その際、速さに気をつけることだけでなく、これまでに学習してきた適正な声の大きさや、前時までに学習している順序立てて話すことができるかどうか友だちに評価してもらったり自己評価したりするためにアドバイスカードを用いる。

最後に振り返りを行い、適正な速さで話すことができたかどうか自己評価して、次時の発表会へ向けての準備をする。

本時の小中連携教育の視点

本時は、話す・聞く系統表の「声の大きさや速さを考えながら話す」を身につけることを主なねらいとしており、これは、高学年の話す力に発展していくための基礎となるものである。

3. 準備

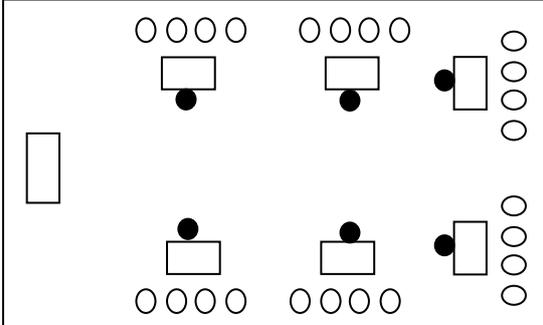
（教師）

演示用ビデオ、アドバイスカード

（子ども）

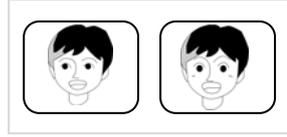
前時までにつくったメモ、ワークシート

4. 本時の展開

学習活動と内容	支援・指導の工夫と留意点
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>聞く人によく分かるように発表するため、にどんなことに注意すればよいかを確かめ、れん習しましょう</p> </div> <p>2. ビデオを見て、注意することを見取る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>適正な速さ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>速い場合</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手のうなずきを確かめながら、間をおいて話すこと。 ○ 相手が聞き取りやすい速さで話すること。 <p>3. 自分の発表の速さを確かめる。</p> <p>(1) 速さに気をつけて試し、自分でよいと思う速さを見つける。</p> <p>(2) 資料CDを再度聞いて、自分の速さと比べ、気をつける点について文章化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ もう少し間をおいて話すようにする。 ○ もう少しゆっくり話すようにする。 <p>4. グループで練習し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6つの発表ブースの中で交代し合って練習する。 ○ 練習発表が終わったら、聞き役にアドバイスカードを渡して評価を書いてもらう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <p>5. 本時を振り返り、次時の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイスカードを見て、本時の自己評価をする。 ○ 次時は、発表会をすることを確かめる。 	<p>○ ビデオの内容を掲示し、見取らせやすくする。</p> <p>○ 見取ったことをノートに書かせる。</p> <p>○ 速さと間に注意しながら試しをするよう促す。</p> <p>○ ノートに自分の気づきについて書き込ませ、自己評価の視点とする。</p> <p>○ これまでに学習してきた、声の大きさや順序立てて話すことのもも発揮しながら練習するよう指示する。</p> <p>○ アドバイスカードを配布する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>アドバイスカード 名前○○○○</p> <p>●わたしの発表のしかたについてアドバイスをください。</p> <p>□聞き取りやすいはやさでしたよ。</p> <p>□わたしがうなずくのをまって話してくれましたよ。</p> <p>そのほか ()</p> </div> <p>○ わかりやすい話し方ができるようになったかどうか自己評価させる。</p>

5. 板書計画

めあて
聞く人によく分かるように発
表するためにどんなことに注
意すればいいかを確かめ、れん
習しましょう



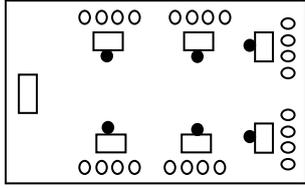
ビデオを見て

- ・なんていって
るかわからな
いところがあ
る。
- ・うなずくひま
がない。
- ・聞き取りやす
い。
- ・うなずきなが
ら聞ける。

わかりやすいはやさのためし
てみよう。

○友だちがうなずくのを待
って

○ちよどよいはやさを見
つけます。
グループで



本時のまとめ

○わかりやすいはやさに気
をつけて話すれんしゅう
をすることができました